

# 企業情報システムの新たな基盤となる “ Entrance DS2000V ”

山永康昌\*  
小山晋護\*

Enterprise Information Systems Platform “ Entrance DS2000V ”

Yasumasa Yamanaga, Shingo Koyama

## 要 旨

企業の情報システムは、部門内の部分最適化から経営と一体化した企業全体に及ぶ全体最適化が必要な時代となっている。また、日本版SOX( Sarbanes - OXley act 法)や個人情報保護法への対応など、ますますコンプライアンスが重視される中、情報システムは販売・生産・経理などそれぞれの部門内の業務効率化だけでなく、企業活動全体にわたり最適化され、内部統制にも対応した、俊敏で柔軟なものでなくてはならない。

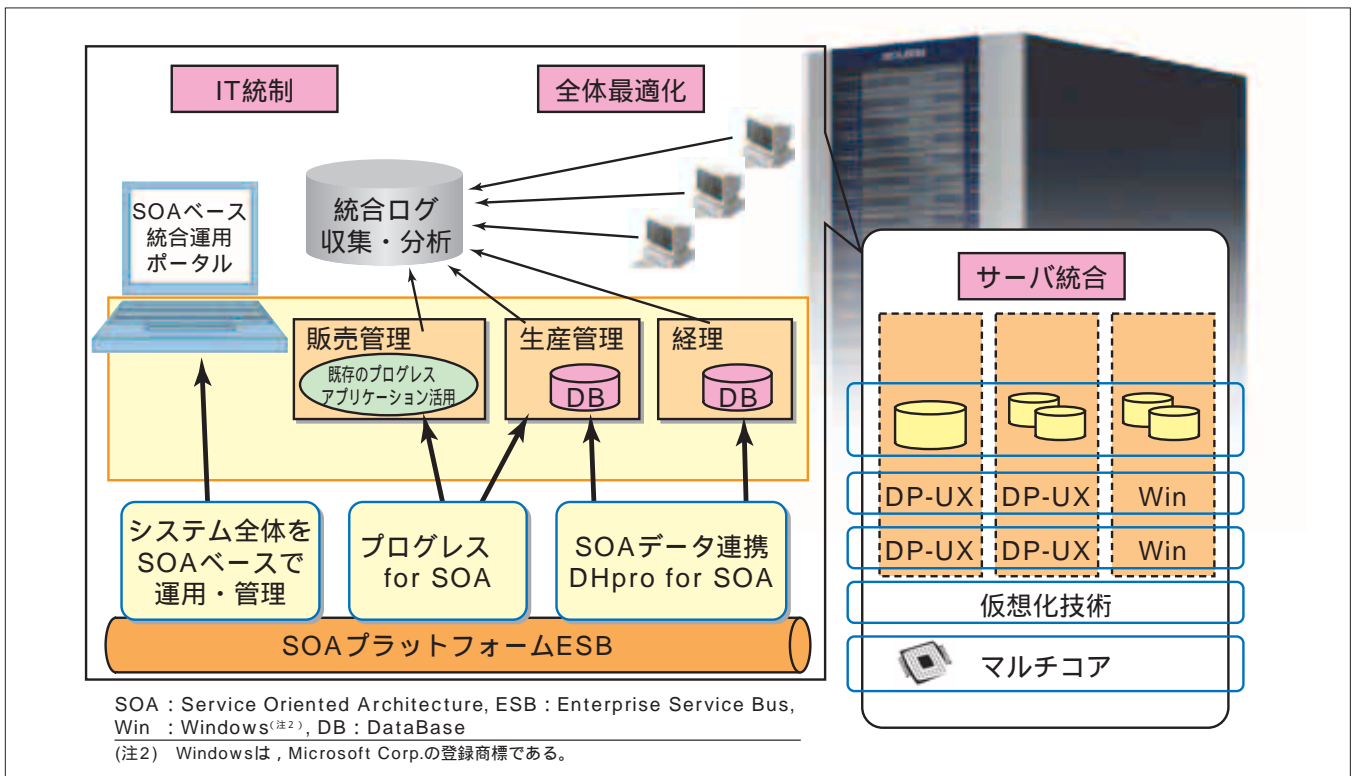
三菱電機インフォメーションテクノロジー(株) (MDIT) は、オフィスコンピュータ“ MELCOM80シリーズ ”, ソリューションサーバ“ RX7000シリーズ ”などで蓄積されてきたアプリケーション資産を継承する Entrance<sup>(注1)</sup>シリーズ”において、これらの時代の要請にこたえ、情報システムの全体最適化を実現する新世代の基幹業務向けサーバとして “ Entrance DS2000V ”を開発した。

(注1) Entranceは、三菱電機(株)の登録商標である。

Entrance DS2000Vでは、SOA( Service Oriented Architecture )技術、仮想化技術を実装することによって、サーバ統合、SOAによる柔軟なシステム連携、業務プロセスの可視化を可能とした。これによって、既存のアプリケーション資産を生かしながら、企業の成長や環境の変化に柔軟に追随し、企業内データの利活用と適切な管理が可能な情報システムを実現できる。

さらに、新たに開発した統合運用ポータル機能と統合ログ収集・分析機能によって、エンドユーザー部門向けには柔軟かつセキュアな操作環境、システム管理部門向けには効率的な運用環境を提供し、運用コストの削減を図りながらIT統制を実現する。

Entrance DS2000Vは、企業が直面する課題を最新技術によって解決することで、顧客アプリケーション資産を最大限に生かしつつ、変化の激しい経営環境に俊敏に対応できる情報システムの基盤を提供する。



## Entrance DS2000Vの実現機能

Entrance DS2000Vでは、SOA技術、仮想化技術を実装することによって、サーバ統合、SOAによる柔軟なシステム連携、業務プロセスの可視化を可能とし全体最適化を実現する。統合運用ポータル機能と統合ログ収集・分析機能によって、エンドユーザー部門向けには柔軟かつセキュアな操作環境、システム管理部門向けには効率的な運用環境を提供し、IT統制に対応する。